

Overview: キリストの天の務めにおいて、彼と協力する道は、i) 忍耐をもってレースを走ること、ii) 信仰の創始者、完成者イエスをひたすら見つめることです。もし私たちがレースを走らず、イエスをひたすら見つめることがないなら、キリストの天の務めにあずかることはできないので、地上で天的な生活をすることはできません。

I. 「こういうわけで、こんなにも大勢の証し人である雲に囲まれているのですから、私たちも、あらゆる重荷と、いと容易にまたいつく罪をかなぐり捨てて、前に置かれているレースを、忍耐をもって走ろうではありませんか」(ヘブル12:1):

A. 雲は民を導き、民が主に従うためです。主は雲の中にいて、民と共にいます。ギリシャ語で「証し人」は、殉教者の意味を含んでいます:

1. 私たちは信仰の人々と共に、主の臨在と彼の導きを持つことができます。信仰の人々、召会の人々はみな雲です。主の臨在を尋ね求める最上の方法は、召会に来ることです。
2. だれでも主の導きを尋ね求めているなら、雲、召会に従わなければなりません。主が雲の中にいることは、彼が信仰の人々と共にいることを意味しています。
3. 私たちは信仰の人々であるので、今日の雲であり、人々は私たちに従うことによって主に従うことができます。主を尋ね求める人たちは、私たちと共にある彼の臨在を見いだすことができます。

B. クリスチャンの生涯はレースです。すべての救われたクリスチャンは、このレースを走って、賞を勝ち取らなければなりません。それは一般的な意味での救いではなく、特別な意味での褒賞です。使徒パウロはそのレースを走り、賞を勝ち取りました:

1. 重荷は、重いもの、重圧、障害物です。レースの走者はあらゆる不必要な重いもの、重荷となる重圧を脱ぎ捨てます。それは、彼らが何の妨げも受けず、そのレースに勝利を得るためです。
2. この文脈の独特な、またいつく罪は故意の罪であり、聖徒たちと共に集まることを捨てさせ、神のエコノミーの新契約の道を放棄させ、ユダヤ教に戻らせるものでした。重荷も、またいつく罪も、ヘブル人信者たちを妨げ、新契約の道においてイエスに従うことができないようにし、彼らが天的なレースを走ることができないようにしました。

C. 私たちは忍耐をもって走り、主が私たちの心を神の愛の中へと、またキリストの忍耐の中へと導いてくださるよう求める必要があります:

1. これは神に対する私たちの愛であり、私たちの心の中に注がれた神の愛から出て来たものです。
2. これは、私たちが享受し経験したキリストの忍耐をもって忍耐することです。

II. 「私たちの信仰の創始者、また完成者であるイエスを、ひたすら見つめていなさい。彼はご自分の前に置かれた喜びのために、恥をもうとわなないで十字架を耐え忍び、そして神の御座の右に座しておられるのです」(ヘブル12:2):

A. 私たちは他のすべてのものから目を離し、わき目もふらずにイエスをひたすら見つめる必要があります。イエスは信仰の創始者、すなわち信仰の創設者、開始者、源、要因です:

2. 彼は巨大な磁石のように、彼を尋ね求める者たちをみなご自身へ引き寄せます:

B. 信者たちの信仰は、実は彼ら自身の信仰ではなく、彼らの中へと入って彼らの信仰となったキリストです:

2. 私たちの天然の人には信じる能力はありません。私たちは自分自身によっては信仰を持っていません。
4. 私たちがイエスをひたすら見つめているとき、命を与える霊としての彼は、彼ご自身を、すなわち彼の信じる要素を私たちに注入します。
5. この信仰は、私たち自身から出たものではなく、彼から出たものです。彼は信じる要素としての彼ご自身を私たちの中へと分け与えます。それは彼が私たちに代わって信じてくださるためです。
6. このゆえに、キリストご自身が私たちの信仰です。私たちは、私たちの信仰としての彼によって、すなわち、彼の信仰によって生きるのであって、私たち自身の信仰によって生きるものではありません。

C. 信仰は実体化する能力、第六感であり、まだ見ていない事柄や望んでいる事柄を実体化し、実体を与える感覚です:

2. 私たちの五感の機能は、外側の世界の事柄を実体化し、客観的なすべてのものを私たちの中へと伝達して、私たちの主観的な経験とならせることです。
3. 信仰、すなわち、私たちの信仰の霊は、目が見て、耳が聞いて、鼻がかぐように、見えない霊の世界にあるすべてのものを、私たちの中へと実体化する器官です: ①私たちは、私たちの信仰の霊、ミングリングされた霊を活用して、主について経験したものを信じ、語るなければなりません。②信仰は、聖霊とミングリングされた私たちの霊の中にあり、思いの中にはありません。疑いは、私たちの思いの中にあります。
4. 私たちは見えるものではなく、見えないものに目をとめ、それを見つめます。なぜなら、見えるものは一時的ですが、見えないものは永遠であるからです: ③クリスチャン生活は、見えないものの生活です。④召会の墮落は、見えないものから見えるものへの墮落です。⑤主の回復は、彼の召会を見えるものから見えないものに回復することです。

D. 信仰は、「神はある」ことを信じることです:

1. 信仰がなくては、神を喜ばせ、神を幸いにすることはできません。
2. 「神に進み出る者は、『神はある』ことを信じ…るはず…です」(11:6): ⑥神はあることを信じることは、私たちがいないことを暗示します。彼はあらゆることでただひとりの方、唯一の方でなければならず、私たちはあらゆることで無でなければなりません。⑦私は何ものでもあるべきではありません。私は存在すべきではありません。ただ彼だけが存在すべきです。「生きているのはもはや私ではありません。キリスト…です」。⑧タルソのサウロが回心した時、主は彼に「私は…イエスである」と告げました。⑨これが信仰です。「ああ、何という喜び。何も持たず、無であり、栄光の中の生けるキリスト以外何も見ず、地上で彼の権益のほか何も顧慮しないことの喜び」。

E. イエスは、私たちの信仰の完成者、成就者、完結者です:

1. 私たちが絶えずイエスをひたすら見つめる時、彼は、私たちが天のレースを走るのに必要とする信仰を成就し、完成します。
2. 私たちはみな性質において同じ信仰を持っていますが、私たちが持っている信仰の量は、私たちがどれほど生ける神と接触し、彼を私たちの中に増し加えているかにかかっています:
3. 私たちの再生された霊、信仰の霊は、組織化され、強奪されたサタンに打ち勝つ勝利です。
4. 抑制できない無制限の偉大な信仰の力は、多くの人たちを動機づけて主のために苦難を受けさせ、命の危険を冒させ、勝利を得ている遣わされた者また殉教者とならせて、信仰の中にある神の永遠のエコノミーを完成させます。

F. ヘブル第12章2節によれば、イエスはご自分の前に置かれた喜びのために、恥をもうとわなないで十字架を耐え忍び、神の御座の右に座しています:

3. もし私たちがそのようなすばらしい、すべてを含む方としての彼をひたすら見つめるなら、彼は天、命、力を私たちに供給し、彼であるすべてをもって私たちに浸潤し、注入します。それは私たちが天のレースを走り、地上で天的な生活をするのできるためです。彼はこのようにして、生涯のすべての道のりを私たちに経過させて、私たちに栄光の中へと導き入れ、もたらします。

経験①: イエスをひたすら見つめて、クリスチャン・レースを走る

クリスチャンの生涯はレースです。すべての救われたクリスチャンは、このレースを走って、賞を勝ち取らなければなりません。…レースを走り、賞を勝ち取った使徒パウロは、クリスチャン生活をレースにたとえた唯一の人でした。彼はヘブル人への手紙でヘブル人信者たちにレースを走るように命じて、言っています、「前に置かれているレースを、忍耐をもって走ろうではありませんか」(12:1)。

このレースには多くの反対があります。こういうわけで、私たちは忍耐をもってそれを走らなければならないのです。これが意味するのは、キリストのレースを走るために、私たちは忍耐をもって反対を受けなければならない、決して魂の中で疲れたり、弱々しくなったりしないということです。

テサロニケ人への第二の手紙第3章5節でパウロは、「主があなたがたの心を、神の愛の中へと、またキリストの忍耐の中へと、導いてくださいますように」と結んでいます。主はその霊の導きによって私たちの心を導き、その霊を通して神の愛が私たちの心の中へと注がれました。テサロニケ人への第二の手紙第3章5節における神の愛は、神に対する私たちの愛であり、私たちの心の中へと注がれた神の愛から出て来たものです。積極的な面で、私たちは神の愛を享受する必要があります。それは私たちが神を愛して彼のために生きるためです。消極的な面で、私たちはキリストの忍耐にあずかる必要があります。それは彼が神の敵サタンに敵対して立ったように、私たちが苦難を忍耐するためです。

「ひたすら見つめ」(ヘブル 12:2)と訳されたギリシャ語は、他のものすべてから目を離し、わき目もふらずにひたすら見つめることを意味します。レースの走者は、百メートル走のように、他のすべてのものから目を離し、わき目もふらずに目標を見つめます。この節でパウロはこう言っているかのようでした、「ヘブル人の兄弟たちよ、そこに立って考えたり、見回したりしてはなりません。あなたがたはキリスト以外のすべてのものから離れて、わき目もふらずに彼を見つめなければなりません。これがレースを走る方法です」。

中高生編

現在の時代において、若者はできるだけ大学を卒業すべきです(そうでなくても、高校卒業後、短大や専門学校などで専門の技能を学ぶ必要があります)。従って中高生の学校生活は、大学受験のためのレースです。大学受験を検討するとき、将来の就職のことを考えた上で受験先を決定すべきです。なぜなら、ある学問は教養のためには役に立ちますが、就職にはほとんど何の役にも立ちません。また、ある学問はあなたが将来希望している職業とは無関係です。将来どんな職業に就きたいのかをある程度検討に入れた上で、大学と学部を選定してください。

大学受験のレースを走る上で、あなたはクリスチャン生活自体がレースであることを認識すべきです。レースや戦いは苦手なので、容易で楽しい中高生生活を歩みたいと考えてはいけません。大学受験が終わっても、ビジネス・ライフで別のレースがあります。クリスチャンの生涯はレースです。

大学受験のレースにおいて、クリスチャンのレースを走ってください。あなたは勉学においてキリストをひたすら見つめ、彼を知恵、理解力、暗記力、忍耐力などとして経験すべきです。そして召会生活を尊び、忙しくても時間を贖って、朝ごとの復興、ドリップ・イリゲーションの祈り、福音、顧みなどを実行し、主日集会に参加してください。忙しい中で召会生活を実行できなければ、結局あなたは召会生活をいつまで経っても実行できないでしょう。主の恵みを取り、自分を甘やかさないようにする必要があります。互いに励まし合い、レースを走ることができますように！ アーメン！

経験②: 信仰とは神が唯一の「ある」であり、私たちは「ない」であると信じることである

神に進み出る者は、「神はある」ことを信じるはずですが、これはとても簡単です。神はただ、「彼はある」を信じることをあなたに要求されます。「ある」という動詞は、実は私たちの三一の神の神聖な称号です。出エジプト記第3章で、モーセは神に、彼の名は何であるかと尋ねました。神は、彼の名は「私は、『私はある』である」と答えました。私たちの神の御名は、「ある」という動詞です。彼は、「私は、『私はある』である」です。彼は唯一の方です。

信仰とは何でしょうか？ 信仰とは、あなた自身が何をやるのもやめることです。あなたは無です。信仰はあなたを神に結び付けて、神をある唯一の方とします。私はありません。ですから、私は、妻を愛する者であるべきではありません。それは、私の妻を愛されるキリストであるべきです。彼はあります。私はありません。私は買い物に行く者となるべきではありません。彼がその方であるべきです。

彼はご自身が創始したものを成就し、ご自身が開始したものを完結されます。私たちが絶えず彼を仰ぎ望むなら、私たちが天のレースを走るのに必要とする信仰を成就し、完結します。いったんキリストが私たちの内側にこの信仰を創始すると、決してそれをあきらめません。…私たちが主に祈り、彼と交わり、聖書を祈り、召会の集会に参加し、霊的メッセージを聞き、霊的書物を読むとき、信仰の完結者として、彼は信じる要素また能力として私たちの中へと絶えず注入されます。…そのような信仰は、私たちがキリストとの有機的な結合の中へともたらします。それはまた絶えずこの有機的な結合を増し加えます。彼と私たちとの有機的な結合の増し加わりは、キリストが私たちの内側で増し加わり、成長することです。…これが主によって完成されつつある私たちの信仰です。

在職青年編

ビジネス・パーソンであるあなたは、サタンの罠に陥って高ぶることがないように警戒する必要があります。一旦高ぶると、あなたはサタンの追従者になってしまうからです。高ぶりは、あなたのクリスチャン・レースのためのあらゆる良きものを破壊してしまいます。例えば、あなたは会社で同僚よりも早く出世することができたとしても、あなたもあなたの同僚も努力奮闘していますが、あなただけが出世することができました。この違いは、主の祝福、兄弟姉妹の祈りがあるかないかだけです。従って、あなたは心の中で高ぶって、「自分の能力は大したものである」と決して言うてはいけません。あなたは心の中で高ぶってつぶやいても誰も聞いていないので、少く大丈夫だと考えてはいけません。サタンはこの高ぶったつぶやきを聞いており、あなたをサタンの追従者にしてしまうのです。あなたは自分がサタンに対抗できるなどと決して考えてはいけません。高ぶりに対して警戒するとは、このような心の中の高ぶったつぶやきを徹底的に対処することです。

あなたは信仰によって、「宇宙の中で神だけが『ある』方であり、私は『ない』者である」と信じ、宣言してください。神は愛であり、知恵であり、力であり、すべてです。しかし、あなたは、愛ではなく、知恵でもなく、力でもなく、何でもありません。もしあなたがこのように信じるなら、あなたは祝福され、周りの人に対する祝福の源となることができます。ハレルヤ！

O the joy of having nothing, being nothing, seeing nothing
But the living Christ in glory, and being careful for nothing.
O the joy of having nothing, being nothing, seeing nothing
But the living Christ in glory, and His interest down on earth.

引用聖句:

I. 「こういうわけで、こんなにも大勢の証し人である雲に囲まれているのですから、私たちも、あらゆる重荷と、いとも容易にまたいつく罪をかなぐり捨てて、前に置かれているレースを、忍耐をもって走ろうではありませんか」(ヘブル12:1):

民9:15 さて、幕屋が建てられた日に、雲は幕屋、証しの天幕を覆った。夕方から朝まで雲は幕屋の上にあつて火のように見えた。16 いつもこのようであった。昼は雲が幕屋を覆い、夜は火のように見えた。17 雲が天幕から上るときはいつも、すぐイスラエルの子たちは出立した。そして雲がとどまる場所に、イスラエルの子たちは宿営した。18 イスラエルの子たちはエホバの命令によって出立し、エホバの命令によって宿営した。雲が幕屋の上にとどまっている間、彼らとはどまって宿営した。19 雲が幕屋の上は何日もとどまり続けるときには、イスラエルの子たちはエホバの命令を守って、出立しなかった。20 雲が数日間しか幕屋の上にとどまらないときがあつても、彼らはエホバの命令にしたがつてとどまって宿営した。そしてエホバの命令によって出立した。21 雲が夕方から朝までとどまるときがあり、朝になって雲が上ると、彼らは出立した。あるいは昼でも夜でも、雲が上るときには出立した。

ヘブル8:2 聖所である真の幕屋の奉仕者となっております。この幕屋は、人が張ったものではなく、主が張られたものです。

I コリント9:24 あなたがたは知らないのですか？ 競技場で走る者はみな走りますが、賞を受けるのはただ一人です。あなたがたは賞を得るために、このように走りなさい。

II テモテ4:7 私は良い戦いを戦い抜き、行程を走り終え、その信仰を守り通しました。

II テサロニケ3:5 主があなたがたの心を、神の愛の中へと、またキリストの忍耐の中へと、導いてくださいますように。

II. 「私たちの信仰の創始者、また完成者であるイエスを、ひたすら見つめていなさい。彼はご自分の前に置かれた喜びのために、恥をもいとわないで十字架を耐え忍び、そして神の御座の右に座しておられるのです」(ヘブル12:2):

雅1:4 私を引き寄せてください。私たちはあなたの後を走ります。王は私を彼の奥の間に連れて行かれた。「私たちはあなたの中で喜び楽しみ、ぶどう酒にまさってあなたの愛をほめたたえます。彼女たちは一心にあなたを愛します。

ホセア11:4 私は人の綱、愛のきずなで彼らを引いた。私は彼らにとって、あごからくびきをはずす者のようになり、優しく彼らに食べさせた。

エレミヤ31:3 エホバは遠くから私に現れて言われた、「まことに、私は永遠の愛をもってあなたを愛した。それゆえ、私はあなたを、慈愛をもって引き寄せてきた。

詩27:4 私は一つの事をエホバに願いました。私はそれだけを求めます。私の命の日の限り、エホバの家に住んで、エホバの麗しさを見つめ、彼の宮で尋ね求めることを。

ローマ10:17 ですから、信仰は聞くことか来るのであり、聞くことはキリストの言葉によるのです。

ローマ3:21-22 しかし今や、律法とは関係なく、…神の義が明らかにされ…ました。すなわち神の義は、イエス・キリストの信仰を通して、信じるすべての人にもたらされました。

ガラテヤ2:16 それでも、人が義とされるのは、律法の行ないに基づいてではなく、イエス・キリストにある信仰を通してであることを知って、私たちもキリスト・イエスの中へと信じたのです。それは、律法の行ないに基づいてではなく、キリストにある信仰に基づいて義とされ

るためです。

ヘブル11:1 さて信仰とは、望んでいる事柄を実体化することであり、見ていない事柄を確認することです。

II コリント4:13 また、「私は信じた。それゆえに私は語った」と書いてあるとおり、同じ信仰の霊を持っているので。

4:18 私たちは見えるものではなく、見えないものに目をとめます。なぜなら、見えるものは一時的ですが、見えないものは永遠であるからです。

ローマ8:24 なぜなら、私たちは望みの中で救われたからです。しかし、見える望みは望みではありません。見ているものを、だれが望むでしょうか？ 25 私たちが見ていないものを望むとしたら、忍耐してそれを熱心に待ち望むのです。

I ペテロ1:8 あなたがたは、その方を見たこともないのに愛しており、その方を今、見ていないのになお信じており、言葉では言い尽くせない、栄光に満ちた喜びをもって歡喜しています。

ガラテヤ6:10 ですから、わたしたちは機会あるごとに、すべての人に対して、特に信仰の家族の人たちに対して、善を行なおうではありませんか。

ヘブル11:6 信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。というのは、神に進み出る者は、「神はある」ことを信じ、彼を熱心に尋ね求める者たちに報いてくださる方であることを、信じるはずだからです。

ヨハネ8:58 イエスは彼らに言われた、「まことに、まことに、私はあなたがたに言う。アブラハムが存在する以前に、『私はある』」。

伝道1:2 空の空、伝道者は言う。空の空、すべては空である。

ヘブル11:5 信仰によって、エノクは死を見ないように移されました。神が彼を移してしまわれたので、彼は見えなくなりました。なぜなら、彼が移される前に、彼は神に喜ばれていたという証しを得たからです。

ガラテヤ2:20 私はキリストと共に十字架につけられました。生きているのはもはや私ではありません。キリストが私の中に生きておられるのです。そして私は今、肉体の中で生きているその命を、私を愛し、私のためにご自身を捨ててくださった神の御子の信仰の中で生きるのです。

ヘブル2:10 万物がその方のために存在し、万物がその方を通して存在する方が、多くの子たちを栄光へ導き入れるのに、彼らの救いの創始者を、苦難を通して成就されるのは、彼にふさわしいことでした。

II コリント3:16 しかし、彼らの心が主に向く時はいつも、そのおおいは取り除かれます。

3:18 しかし、わたしたちはみな、主の栄光をおおいのない顔をもって、鏡のように見つめ、そして反映して、栄光から栄光へ、主と同じかたちへと徐々に造り変えられていきますが、それはまさに主なる霊からです。

I ペテロ5:4 そうすれば、牧者の長が現れる時、あなたがたは、しばむことのない栄光の冠を受けます。

II テモテ4:8 今からは、義の冠がわたしのために用意されているのです。かの日には、義なる審判者である主が、それをわたしに授けてくださいます。わたしだけではなく、主の出現を慕ってきたすべての人にも授けてくださいます。

ヨハネ 14 章のマイルストーン: 三一の神の分与—神の住まいを生み出すために:

a. イエスは死を通して行き、キリストは復活の中で来て、信者たちを御父の中へともたす:

ヨハネ 14:2 私の父の家には多くの住まいがある。もしそうでなかったなら、私はあなたがたに話したであろう。あなたがたのために、場所を用意しに行くのである。3 私が行って、あなたがたのために場所を用意したなら、再び来て、あなたがたを私自身に迎える。私がいる所に、あなたがたもいるようになるためである。5 トマスは彼に言った、「主よ、あなたがどこへ行かれるのか、私たちにはわかりません。どのようにして、その道を知ることができるでしょうか?」。6 イエスは彼に言われた、「私は道であり、実際であり、命である。私を通してでなければ、だれも父に来ることはない。

b. 三一の神はご自身を信者たちの中へと分与する:

(1) 御父は御子の中に具体化され(the Father embodied in the Son)、信者たちの間で見られる:

8 ピリポが彼に言った、「主よ、私たちに父を見せてください。そうすれば、私たちは満足します」。9 イエスは彼に言われた、「ピリポよ、私がこんなに長くあなたがたと一緒にいるのに、あなたは私を知らなかったのか? 私を見た者は父を見たのである。どうしてあなたは、『私たちに父を見せてください』と言うのか? 10 私が父の中におり、父が私の中におられることを、あなたは信じないのか? 私があなたがたに語る言葉は、私が自分から語るのではない。私の中に住んでいる父が、ご自身のわざを行なっておられるのである。

(2) 御子は実際化されてその霊となり(the Son realized as the Spirit)、信者たちの中に住む:

16 私は父にお願いしよう。そうすれば、彼はあなたがたに別の慰め主を与えて、いつまでも、あなたがたと共にいるようにしてください。17 それは実際の霊である。世の人はその方を受けることができない。それは、世の人が彼を見ないし、知りもしないからである。しかし、あなたがたは彼を知っている。彼はあなたがたと共に住んでおり、またあなたがたの中におられるようになるからである。18 私は、あなたがたをみなしごのままにはしておかない。私はあなたがたに来る。19 もうしばらくすると、世の人はもはや私を見ない。しかし、あなたがたは私を見る。私が生きるので、あなたがたも生きるようになる。20 その日には、私が私の父の中におり、あなたがたが私の中におり、私があなたがたの中にいることを、あなたがたは知るであろう。

c. 三一の神は信者たちと共に住まいを造る:

23 イエスは彼に答えて言われた、「だれでも私を愛する者は、私の言を守る。そして私の父は彼を愛され、私たちは彼の所へ行って、彼と共に住まいを造る。

d. 慰め主が思い起こさせることと、命の平安:

26 しかし慰め主、すなわち、父が私の名の中で遣わされる聖霊は、あなたがたにすべての事を教え、また私があなたがたに言ったすべての事を思い起こさせてください。27 私は平安をあなたがたに残す。私の平安をあなたがたに与える。私があなたがたに与えるのは、世の人が与えるようなものではない。あなたがたは心を騒がせてはならない。恐れてはならない。28 『私は行く。そしてあなたがたに来る』と、私があなたがたに言ったのを、あなたがたは聞いた。…29 今私はあなたがたに、事が起こる前に告げた。それは、事が起こった時、あなたがたが信じるためである。

この章での主の意図は、人を神の中にもたして、神の住まいを建造することでした。しかし人と神の間には、多くの障害物があります。例えば、単数の罪(罪の性質)、複数の罪(罪の行為)、死、この世、肉、自己、古い人、サタンなどです。主は人を神の中にもたすために、これらすべての問題を解決しなければなりませんでした。ですから、彼は十字架に行って、贖いを成し遂げなければなりません。それは、彼が人のために道を開き、人が神の中に入る立場を作るためです。神の中で立場が拡大されたものが、キリストのからだの中の立場です。だれでも神の中にその立場、場所を持たなければ、キリストのからだ、すなわち神の住まいの中に立場はありません。ですから、主が行って、贖いを成し遂げられるのは、弟子たちのために、彼のからだの中に場所を用意するためです。

主に感謝します。主は十字架に行くことによって、私たちと神との間の私たちでは対応することができない膨大な罪の問題を解決されました。それは、私たちのために、神に行く道を開き、私たちが神の中に立場を持ち、神の家族のメンバー、キリストのからだの肢体となるためです。私たちは主の贖いの働きに感謝し、大胆に神の前に進んで、神を享受すべきです。ここで、重要な要点は、「あなたは罪の赦しに止まってははいけません。それは神の家族、キリストのからだの建造のためのプロセスであり、目的ではない」ということです。

この章はまた、神がご自身を人の中に分与される道を啓示しています。ご自身を私たちに分与することで、神は三一です。神は一であり、しかも三、すなわち父、子、霊です。御子は御父の化身、表現であり、その霊は御子の実際、実現です。御子はその霊として来られ、御子の豊富を実際化します。

神の家族、住まい、キリストのからだの建造は、神ご自身が人の中に分与されることによるのみ、成し遂げることができます。父なる神は見えませんが、子なる神は人の間で、父を具体的に表現しました。子は死と復活を経過して、命を与える霊、実際の霊となり、子のすべての豊かさを実際に人々に伝達します。三一の神、父、子、霊は神聖な分与のためであり、私たちは分与を享受することができます。あなたが心を主に向け、霊を活用して、主の御名を呼び求めれば、命を与える霊、実際の霊は、神聖な豊富を伴う神の命をあなたの中に分与します。分与を受ければ受けるほど、あなたの内側の神の命は徐々に成長します。このようにして、神の家、キリストのからだは建造されるのです。

聖霊は御父からだけでなく、御子からも来て、御父の実際となり、御子の実際ともなわれます。こういうわけで、私たちが御子の名を呼び求める時、その霊を得るのです。

まとめると、神聖な分与のために、御子は御父を人々の間で具体的に表現し、その霊は人々の中に入り、御父と御子の豊富を実際化します。この分与は神の家の建造のためです。

あなたが大学、大学院の若い時から聖書に親しむことは、今後の人生に大きな益があります。最初に御言葉のある箇所を読んだ時、あなたはその意味が理解できない、あるいは受け入れられないかもしれません。しかし、実際の霊は後であなたが読んだ聖書の意味を啓示し、思い起こさせます。それはあなたが命の分与を享受して、キリストのからだを建造するためです。主の恵みが BSG 参加者の霊と共にありますように。アーメン!